

## 福岡大学医学部(推薦) 数学

2020年11月29日実施

[I] 次の  をうめよ。答は解答用紙の該当欄がいたうに記入せよ。

(i)  $n$  が自然数のとき、 $\sqrt{n^2 - 4n + 15}$  が自然数となるすべての  $n$  を求めると  (1) である。

(ii) 四面体 OABC が  $OA = OB = 1$ ,  $OC = 2$ ,  $\angle AOB = \frac{\pi}{2}$  をみたすとする。辺 BC を 1:2 に内分する点を H、線分 AH を 3:2 に内分する点を I とする。直線 OI が 3 点 A, B, C を通る平面と垂直に交わるとき、 $\triangle ABC$  の面積は  (2) である。

(iii) 定数  $a, b$  が  $\lim_{x \rightarrow 3} \frac{\sqrt{4x+a}-b}{x-3} = \frac{2}{5}$  をみたすとき、 $(a, b) =$   (3) である。

(iv)  $a$  を実数とする。 $z = 2 + ai$  とするとき、複素数平面上で複素数  $\frac{1-i}{z+i}$  が表す点を P とする。このとき、点 P からの距離が  $a$  によらずに一定となる点を表す複素数は  (4) である。ただし、 $i$  は虚数単位とする。

解答

(i) (1) 7      (ii) (2)  $\frac{\sqrt{105}}{6}$       (iii) (3) (13, 5)      (iv) (4)  $\frac{1-i}{4}$

解説

(i)  $\sqrt{n^2 - 4n + 15} = m$  ( $m$  は自然数) とする。両辺を 2 乗すると、

$$\begin{aligned} n^2 - 4n + 15 = m^2 &\iff (n-2)^2 - m^2 = -11 \\ &\iff \{(n-2) + m\}\{(n-2) - m\} = -11 \\ &\iff (n+m-2)(n-m-2) = -11 \end{aligned}$$

$n, m$  は自然数より、 $n+m-2, n-m-2$  はともに整数であり、

$$n+m-2 \geq 0$$

また、11 は素数であるため、

$$\begin{cases} n+m-2=1 \\ n-m-2=-11 \end{cases} \quad \text{または} \quad \begin{cases} n+m-2=11 \\ n-m-2=-1 \end{cases}$$

これを解いて、

$$(n, m) = (-3, 6), (7, 6)$$

$n > 0$  より、

$$n = 7$$



$$\begin{aligned}
 BC^2 &= |\vec{c} - \vec{b}|^2 \\
 &= |\vec{c}|^2 - 2\vec{b} \cdot \vec{c} + |\vec{b}|^2 \\
 &= 4 - 2\left(-\frac{2}{3}\right) + 1 \\
 &= \frac{19}{3}
 \end{aligned}$$

よって,

$$AC^2 = BC^2 \quad \therefore AC = BC$$

$\triangle ABC$  は  $AC = BC$  の二等辺三角形である。辺  $AB$  の中点を  $M$  とすると、 $CM \perp AB$  より、

$$\begin{aligned}
 CM &= \sqrt{AC^2 - AM^2} \\
 &= \sqrt{\frac{19}{3} - \left(\frac{1}{\sqrt{2}}\right)^2} \\
 &= \sqrt{\frac{35}{6}}
 \end{aligned}$$

よって,

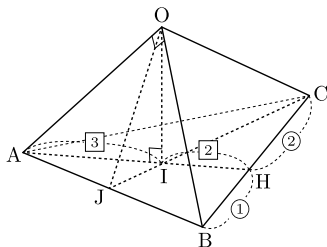
$$\begin{aligned}
 \triangle ABC &= \frac{1}{2} \cdot \sqrt{2} \cdot \sqrt{\frac{35}{6}} \\
 &= \frac{\sqrt{105}}{6}
 \end{aligned}$$

(別解)

$AB = \sqrt{2}$  より、

$$\begin{aligned}
 \triangle ABC &= \frac{1}{2} \sqrt{|\vec{AB}|^2 |\vec{AC}|^2 - (\vec{AB} \cdot \vec{AC})^2} \\
 &= \frac{1}{2} \sqrt{(\sqrt{2})^2 \cdot \frac{19}{3} - 1^2} \\
 &= \frac{1}{2} \sqrt{\frac{35}{3}} \\
 &= \frac{\sqrt{105}}{6}
 \end{aligned}$$

(別解)



図のように点  $J$  をとると、メネラウスの定理より、

$$AJ : JB = 1 : 1, \quad JI : IC = 1 : 4$$

がわかる。このとき、

$$OI^2 = OJ^2 - JI^2, \quad OI^2 = OC^2 - IC^2$$

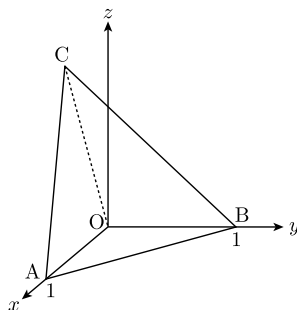
より、

$$CJ = \frac{\sqrt{210}}{6}$$

また、平面  $OIJ \perp AB$  より、 $CJ \perp AB$  であるため、

$$\begin{aligned} \triangle ABC &= \frac{1}{2} AB \cdot CJ \\ &= \frac{1}{2} \cdot \sqrt{2} \cdot \frac{\sqrt{210}}{6} \\ &= \frac{\sqrt{105}}{6} \end{aligned}$$

(別解)



座標空間において、 $A(1, 0, 0)$ ,  $B(0, 1, 0)$ ,  $C(a, b, c)$  ( $c > 0$ ) とすると、

$$|\vec{c}| = 2, \quad \vec{b} \cdot \vec{c} = \vec{a} \cdot \vec{c} = -\frac{2}{3}$$

より、

$$a = b = -\frac{2}{3}, \quad c = \frac{2\sqrt{7}}{3}$$

外積を用いることにより、

$$\vec{AB} \times \vec{AC} = \frac{1}{3} (2\sqrt{7}, 2\sqrt{7}, 7)$$

よって、

$$\begin{aligned} \triangle ABC &= \frac{1}{2} |\vec{AB} \times \vec{AC}| \\ &= \frac{\sqrt{105}}{6} \end{aligned}$$

(iii)  $\lim_{x \rightarrow 3} \frac{\sqrt{4x+a}-b}{x-3} \dots$  ① の分母について、

$$\lim_{x \rightarrow 3} (x-3) = 0$$

よって、極限 ① が収束するとき、① の分子についても、

$$\lim_{x \rightarrow 3} (\sqrt{4x+a}-b) = 0$$

すなわち、

$$\sqrt{4 \cdot 3 + a} - b = 0 \iff b = \sqrt{a+12} \dots \textcircled{2}$$

が成り立つ必要がある。このとき、

$$\begin{aligned} \lim_{x \rightarrow 3} \frac{\sqrt{4x+a}-b}{x-3} &= \lim_{x \rightarrow 3} \frac{\sqrt{4x+a}-\sqrt{a+12}}{x-3} \\ &= \lim_{x \rightarrow 3} \frac{(4x+a)-\sqrt{a+12}}{(x-3)(\sqrt{4x+a}+\sqrt{a+12})} \\ &= \lim_{x \rightarrow 3} \frac{4(x-3)}{(x-3)(\sqrt{4x+a}+\sqrt{a+12})} \\ &= \lim_{x \rightarrow 3} \frac{4}{\sqrt{4x+a}+\sqrt{a+12}} \\ &= \frac{4}{\sqrt{4 \cdot 3+a}+\sqrt{a+12}} \\ &= \frac{2}{\sqrt{a+12}} \end{aligned}$$

①  $= \frac{2}{5}$  より,

$$\frac{2}{\sqrt{a+12}} = \frac{2}{5} \quad \therefore a = 13$$

② より,

$$b = 5$$

よって,

$$(a, b) = (13, 5)$$

(iv)  $a$  を実数全体で動かしたときに,  $\frac{1-i}{z+i} = \frac{1-i}{2+(a+1)i}$  が描く図形を考える。

$$w = \frac{1-i}{2+(a+1)i} \text{ とすると, } w \neq 0 \text{ より,}$$

$$a = \frac{-i-1}{w} + 2i - 1$$

$a$  は実数であるため,

$$\bar{a} = a$$

よって,

$$\begin{aligned} \overline{\left(\frac{-i-1}{w} + 2i - 1\right)} &= \frac{-i-1}{w} + 2i - 1 \iff \frac{i-1}{\bar{w}} - 2i - 1 = \frac{-i-1}{w} + 2i - 1 \\ &\iff 4i w \bar{w} - (-1+i)w - (1+i)\bar{w} = 0 \\ &\iff w \bar{w} - \frac{1+i}{4}w - \frac{1-i}{4}\bar{w} = 0 \\ &\iff \left|w - \frac{1-i}{4}\right|^2 = \frac{1}{8} \\ &\iff \left|w - \frac{1-i}{4}\right| = \frac{\sqrt{2}}{4} \end{aligned}$$

$w$  が表す点は, 点  $\frac{1-i}{4}$  を中心とする半径  $\frac{\sqrt{2}}{4}$  の円周上を動くこととなり, 点  $\frac{1-i}{4}$  以外に条件を満たす点は存在しない。したがって, 求める複素数は,

$$\frac{1-i}{4}$$

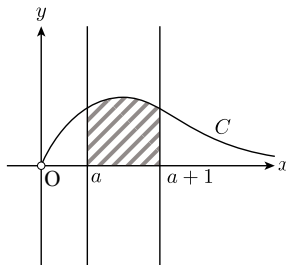
〔II〕 (記述問題)

曲線  $C: y = \frac{4x}{4x^2 + 7}$  ( $x > 0$ ) について次の問に答えよ。

- (i)  $a > 0$  とする。曲線  $C$ ,  $x$  軸, 直線  $x = a$  および直線  $x = a + 1$  とで囲まれる部分の面積  $S(a)$  を求めよ。
- (ii)  $S(a)$  の最大値と, その最大値を与える  $a$  の値を求めよ。

解答

(i)



$x > 0$  において,  $y = \frac{4x}{4x^2 + 7} > 0$  より,

$$\begin{aligned} S(a) &= \int_a^{a+1} \frac{4x}{4x^2 + 7} dx \\ &= \frac{1}{2} \int_a^{a+1} \frac{(4x^2 + 7)'}{4x^2 + 7} dx \\ &= \frac{1}{2} \left[ \log(4x^2 + 7) \right]_a^{a+1} \\ &= \frac{1}{2} \log \frac{4a^2 + 8a + 11}{4a^2 + 7} \end{aligned}$$

(ii) (i) より,

$$\begin{aligned} S'(a) &= \frac{d}{da} \int_a^{a+1} \frac{4x}{4x^2 + 7} dx \\ &= \frac{4(a+1)}{4(a+1)^2 + 7} - \frac{4a}{4a^2 + 7} \\ &= -\frac{4(4a^2 + 4a - 7)}{(4a^2 + 8a + 11)(4a^2 + 7)} \end{aligned}$$

$S'(a) = 0$  のとき,  $4a^2 + 4a - 7 = 0$  より,

$$a = -\frac{1}{2} + \sqrt{2} \quad (\because a > 0)$$

$\alpha = -\frac{1}{2} + \sqrt{2}$  とすると,  $S(a)$  の増減表は次の通り。

$a$	0	...	$\alpha$	...
$S'(a)$		+	0	-
$S(a)$		↗	$S(\alpha)$	↘

$S(a)$  は  $a = \alpha$  で最大となる。 $S'(\alpha) = 0$  より,

$$4\alpha^2 + 4\alpha - 7 = 0 \iff 4\alpha^2 = -4\alpha + 7$$

$$\begin{aligned}
 \therefore S(\alpha) &= \frac{1}{2} \log \frac{4\alpha + 18}{14 - 4\alpha} \\
 &= \frac{1}{2} \log \frac{2\alpha + 9}{7 - 2\alpha} \\
 &= \frac{1}{2} \log \frac{4 + \sqrt{2}}{4 - \sqrt{2}} \\
 &= \frac{1}{2} \log \frac{(2\sqrt{2} + 1)^2}{7}
 \end{aligned}$$

よって,

$$a = -\frac{1}{2} + \sqrt{2} \text{ で最大値 } \frac{1}{2} \log \frac{(2\sqrt{2} + 1)^2}{7}$$

(別解)

$$\begin{aligned}
 S(a) &= \frac{1}{2} \log \left( 1 + \frac{8a + 4}{4a^2 + 7} \right) \\
 &= \frac{1}{2} \log \left( 1 + \frac{4}{(2a + 1) + \frac{8}{2a + 1} - 2} \right)
 \end{aligned}$$

$2a + 1 > 0$ ,  $\frac{8}{2a + 1} > 0$  なので, 相加平均・相乗平均の大小関係より,

$$\begin{aligned}
 (2a + 1) + \frac{8}{2a + 1} - 2 &\geq 2\sqrt{(2a + 1) \cdot \frac{8}{2a + 1}} - 2 \\
 &= 4\sqrt{2} - 2
 \end{aligned}$$

よって,

$$S(a) \leq \frac{1}{2} \log \frac{(2\sqrt{2} + 1)^2}{7}$$

等号が成立するとき,  $2a + 1 = \frac{8}{2a + 1}$  より,

$$(2a + 1)^2 = 8 \quad \therefore a = -\frac{1}{2} + \sqrt{2}$$

よって,

$$a = -\frac{1}{2} + \sqrt{2} \text{ で最大値 } \frac{1}{2} \log \frac{(2\sqrt{2} + 1)^2}{7}$$

## 講評

## [I]

## (i) [整数] (易)

(与式) = (自然数) において 2 乗し, 因数分解するタイプの問題である。ここは落とせない。

## (ii) [空間ベクトル] (やや難)

条件から分点を求め, 内積計算するだけではあるが計算量が多い。場合によっては後回しにするのも手である。

## (iii) [極限] (やや易)

典型的な極限值からの係数決定の問題である。方針はシンプルなので, ミスがなければ解けるはず。

## (iv) [複素数平面] (やや難)

点 P が描く図形が円であることがイメージできるかが分かれ目であり, 受験生は計算ミスしがちな問題である。計算量も多く, 方針が立たない場合は他に時間をかけるべきかと思われる。

## [II] [数Ⅲ微積分] (標準)

(i) 積分の計算問題として基本レベルであり, 確実に解いておきたい。

(ii) 方針によって解答時間に差が出ると思われる。(i) の  $S(a)$  をそのまま微分してもよいが,  $\int_a^{a+1} \frac{4x}{4x^2+7} dx$  自体を  $a$  で微分すれば手間が省ける。また,  $a > 0$  より, 相加平均・相乗平均の関係式に持ち込めれば, 微分も不要である。

去年の問題よりは若干易しくなっているが, それでも難しく, 制限時間内に全問解くのは難しいだろう。[I] (i), (iii), [II] (i) を確実に解き, 残った時間で計算量が多いが方針が見えている [II] (ii) と [I] (ii) を解答, 余裕があれば (iv) に手をつけるというのがベストかと思われる。目標は 60 %。

**メルマガ無料登録で全教科配信!** 本解答速報の内容に関するお問合せはメルリックス英進館 ☎0120-142-762まで

**ME** **メルリックス英進館** ☎ 0120-142-762  
受付 10~22時(土日祝日は19時まで)  
福岡市中央区舞鶴 1-1-11  
天神クラスビルディング2F  
<https://www.melurix-eishinkan.com/>

**YMS** **医学部専門予備校** ☎ 03-3370-0410  
受付 8~20時(土日祝可)  
東京都渋谷区代々木 1-37-14  
<https://yms.ne.jp/>

**メビオ** **医学部進学予備校** ☎ 0120-146-156  
受付 9~21時(土日祝可・携帯から50%)  
大阪市中央区石町 2-3-12  
ベルクオア天満橋  
<https://www.mebio.co.jp/>